

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677500128
法人名	社会福祉法人 陵幸会
事業所名	グループホーム 陵幸園 ころろ1
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町麓3811番地2 (電話)
自己評価作成日	令和4年2月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは同法人施設に隣接し、ホーム周辺には民家があり、畑も広がり豊かな環境の中、9名の入居者様が生活されています。入居者様お1人ずつの尊厳を大切に、理念に沿ってその人らしく生活が送れる様、スタッフの支援を受けながら、楽しく生活されています。家庭的な雰囲気の中、居住環境を整え、地域や家族とのつながりを大切にしています。当ホームは菜園を所有しています。季節毎の野菜を作り、旬の食材を献立に取り入れて召し上がって頂いています。近隣の地域の方より穫れたての野菜を頂く事もよくあり、漬物や和え物等を作りお礼をしています。年2回の地域の奉仕作業にも参加し、地域との絆を大切に、交流を図っています。同じく年2回の消防訓練にはコロナ禍で地域の方々の参加は出来ませんでしたが、ホーム周辺の散歩ではお庭にお邪魔させて頂いたり、御好意により果物の収穫もさせて頂き地域の方々と交流を図っています。コロナ禍で運営推進会議は開催出来ませんでしたが、活動や生活状況等市役所に報告しています。8名のスタッフも各々の持ち味を生かし入居者様の思いに寄り添いながら、信頼関係を構築しています。毎日のケアの中での気付きや問題点はケア会議で話し合い、情報共有しながらよりよいホーム作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿屋市の中心部から数キロほど離れた自然豊かな吾平地区の一角に平成16年に開設されており、広い敷地には桜をはじめ多種の樹木や草花が植えられ、同法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンター、居宅介護支援事業所等が隣接して設置されている。これらの事業所は、法人本部を中心に常に情報を共有し、合同での研修の実施や緊急時及び災害時の協力体制を構築している。周辺は多くの個人住宅と広大な田畑が広がり、少し離れて小学校や市役所吾平支所、商店等が立ち並んで利便性も良い。

開設以来、自治会に加入し、地域の一員として認知症サポート養成講座の実施や道路の奉仕作業、地区のイベントへの参加や協力に努め、また、地域の人から農産物やタオル等を頂いたりホームの行事に参加して貰う等、円滑に交流してきているが、現在はコロナ禍に配慮して、イベントへの参加やボランティアの受け入れ、子供達との交流等は自粛している。感染予防対策を徹底して、周辺の散歩時の挨拶や、住人の勧めで庭に入って花を眺めたり、果物を収穫させていただくなど、日常的に親密な交流が図られており、利用者は四季を感じながら平穏な日々を過ごしている。

管理者及び職員は、理念に沿って利用者の尊厳や人格、思い等を大切に、その人らしい生きがいのある暮らしとなるように心身の状態や生活習慣等にも配慮しながら利用者主体の支援に取り組んでいる。利用者及び家族の意見や要望等を、ケアの中や面会、電話等で把握し、ミーティング等で協議して改善に繋げており、アンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、年齢差や経験年数に関係なく気軽に意見を言い合える人間関係を構築しており、日頃の業務の中やミーティング、申し送り時に業務に関する意見や要望を出し合って運営やサービスの改善に取り組んでいる。また、管理者は日頃から接遇や身体拘束関連の研修を熱心に取り組み、ケアに関する助言・指導にも努め、勤務シフトには休暇取得や個人的事情も十分配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者様の自立支援や家族、地域とのつながりを大切にしている。理念を周知共有しながらケアを心掛けている。	地域密着型サービス事業所としての意義を踏まえたホームの理念を掲げ、目に付きやすい玄関やリビング、トイレ等に掲示し、また、ホームのパンフレットや毎月発行の園便り、職員のネームプレートにも記載して周知を図っている。ケア会議や毎日のミーティング時に振り返りや意見交換、実施状況の確認等に努めて、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方より新鮮な野菜や露地の果物等頂きお返しに漬物、和え物等作り差し上げている。散歩の時地域の方の庭にお邪魔してきれいなお花を見学させて頂き交流を図っている。	開設以来、地域との交流を大切に取組んできており、地域の道路清掃活動や文化祭などイベントにも積極的に参加し日常的な会話や農産物を頂くなど、地域との良好な交流が図られてきているが、現在はコロナ禍の為、地域のイベントの殆どが中止され、利用者の外出や子供達との交流、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民参加等は自粛している。周辺の散歩時の会話やタオルや農産物を頂く、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談に助言する等の交流は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍で地域の行事も開催されず参加できていない。園外への散歩を通して、認知症の人への理解や支援を地域の人々より頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催はコロナ禍でできていないが、毎月の行事や入居者様の生活状況をこころ便りに掲載し、活動報告と一緒に市役所に文書にて報告している。	会議は、家族、民生委員、自治会の班長、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して現在は一堂に会することは控えて書面での会議に変更している。利用者の状況やホームの運営、行事等を議題に、意見や助言、感想等を記入する書式も同封して送付している。寄せられた意見等はミーティングやケア会議で検討して業務やサービスの改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>開催はできなかったが2ヶ月毎に運営推進会議資料を市役所に提出し市町村との協力関係を構築している。</p>	<p>介護保険の更新や各種制度の申請、報告、感染症予防に関連する協議等を窓口に出向いたり電話等で行い、指導や助言、提案をもらうなど、市担当者とは協力関係を築いており、運営推進会議でもホームの状況の理解を得ている。地区グループホーム連絡協議会主催のリモートによる会議や研修にも参加して、運営及びサービスの向上を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>現在拘束事例はない。身体拘束マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、スタッフ間で周知、再確認する事で日常のケアに取り込んでいる。</p>	<p>身体拘束の防止については運営規定や利用契約書、重要事項に明記し、計画的な勉強会の実施で認識を共有している。適正化を図る指針を整備し身体拘束廃止委員会も毎月開催すると共に、日々のミーティングで拘束に関する意見交換やケアの振り返りに務め、拘束の無いケアに取り組んでいる。昼間は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添い等で気持ちの安定を図り、職員の不適切な発言やケアには、その都度、注意や助言し合って改善に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>コロナ禍でのリモートによる研修等に参加し、虐待の意義をスタッフ全員で理解する事により、日常の入居者様に対するケアを反映し、防止に努める様にしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会で個々の必要性を検討し、成年後見制度について理解を深め、対応できる様に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時における利用契約書や重要事項説明書で十分に説明を行いながら、不安や疑問等伺い、納得し了承の上で契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会も制限されているが、面会の折にはご家族様に要望等伺うように心掛けている。出された要望等はスタッフ全員で周知共有しミーティング等で検討している。	利用者や家族には日頃から気軽に意見を出しやすい様に配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で理解し、家族からの意見、要望は面会（コロナ禍の状況により窓越しやリモートで実施）や電話、手紙等で把握しているが家族会の開催は中止している。毎月の園便りでも写真やコメントで実状を伝え意見等を貰うように取り組んでおり、出された意見要望はミーティング等で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で改善して欲しい点や業務に対する提案、意見等ミーティングで伺う機会を設けている。	管理者及び職員は日頃からコミュニケーションによる信頼関係の構築に努めており、日常の業務の中やミーティング、ケア会議時に意見や要望を出し合い、また、状況に応じて個別面談等も行っており働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。管理者は、法人の支援課長や作業療法士の助言も得ながら、ケアに対する助言・指導に努め、スキルアップを図る研修の実施や勤務シフトに休暇の取得や健康状態、個人的事情への配慮、職員の資格取得にバックアップする等、日々取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの個々の希望や意見を取り入れた業務体制をつくり、楽しく向上心を持ち、働ける様感染症予防対策をとりながら、環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>リモートでの研修会やレポートでのグループ内の勉強会に参加し、知り得た知識や研修内容は職員会議で周知し、スキルアップにつながっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列のグループホームとは電話で情報交換等行い、知り得た情報はスタッフに周知し、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御家族様や出来る方は御本人様もホームでの生活を見て頂き、不安な事やわからない事等傾聴している。毎日のケアの中で御本人様の思いをくみとり、寄り添い信頼関係を構築する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様が安心してホームで生活される様に馴染みの物は居室に持ち込んで頂き、住み慣れた居住環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の生活歴や既往歴を把握し、体調管理を行いながら日常生活でのニーズを見極めながら支援の優先順位を考える。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の残存機能を生かしつつ他入居者様やスタッフと一緒に、行事や活動に参加して頂き、会話を通して関係性を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でリモートでの面会や居室での面会の機会は少ないが御家族様との絆を大切にしながら、御本人様を支えて行くケアを心掛ける。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	園外散歩では地域の方の庭へとお連れしたり、ご好意で果物の収穫をさせて頂いたり、地域の方とのふれあいを持ちながら支援に努めている。	利用者毎の馴染みの情報を把握しており、また、殆どの利用者が近辺からの入所であるため馴染みの人や場の共通性が多く見受けられる。通常は周辺の散歩や買い物、一時帰宅、通院、墓参等を家族の協力を得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して外食、外泊、墓参等は控えている。家族との面会や電話、手紙の取り次ぎ、訪問美容、園便りの送付等に努め、関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のホームでの生活の中で洗濯物の整理や野菜の選別、活動等の共同生活を通して、入居者様同士の交流を深めて頂く様支援させて頂き、個々の性格にも配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調変化により入院されたり、他施設への移動になられたりしても情報提供をおこなったり、電話でのご家族様へのフォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様、御家族様の要望や意向を伺いながら、毎日のケアに努めている。意思疎通の難しい入居者様には生活の中で思いをくみとり、ケアプランの作成に努めている。	日頃の会話やコミュニケーションが難しい利用者からは仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って昔の音楽やテレビの視聴、ぬり絵、菜園での野菜収穫、食材の下処理、お盆拭き等の取り組みを、体調や残存能力に配慮しながら個別に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や御本人様に生活歴を伺ったり、毎日のケアでの会話の中で好きな事等情報収集しながら、思いに寄り添える様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中で入居者様各々の残存機能や身体状況、バイタルや水分量、食事量等把握し、スタッフ全員での現状把握に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の思いや御家族様の御意向、ニーズ、スタッフの意見等話し合い、モニタリング行い介護計画作成につなげている。大きな身体状況の変化時は御家族様にも相談しケアプランの区分変更行う。	介護計画には、利用者や家族の思いを日頃の関わりの中や電話等で把握し、主治医の指示やミーティング及びモニタリング時の職員の意見を基に残存機能や習慣、楽しみ事等にも配慮して作成している。利用者の心身の変化時は計画を実態に沿って変更し家族の理解も得てから支援しており、実施状況は「こころ（夜勤）日誌」等に記録して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画のみなおしに活かしている	毎日個別に記録し、体調変化や気づきがあれば記載している。申し送り簿や連絡ノートにてスタッフに周知し、情報共有している、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様の身体状況や御家族様の御意向、ニーズに対応し併設施設やグループ関連施設、病院（母体）等と連携しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で様々な行事が開催されない状況で、地域の方より新鮮な野菜を頂いている。ホーム外へと散歩に出掛け、季節の花を楽しまれ気分転換を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診を受けられている。体調変化時は報告し、主治医指示のもと他医療機関受診も行っている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診も家族と協力して適切な医療を受けている。協力医療機関とは携帯電話を利用したのオンコール体制を構築し、日頃から利用者の衛生や健康管理に努めるとともに病状等は家族にも密に報告しており、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	主治医の長崎内科の看護師と連携を図っている。日常の体調変化や気づいたこと等、往診時や随時状態報告を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時には御家族と一緒に病状説明を受け、入院中は医療相談員と連携をとりながら状態把握を行う関係性を作っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化や終末期に向けた支援は入居時契約書に準じ、事務所の方針等ご本人、ご家族様に説明を行っている。体調変化時は御家族様の御意向を伺いながらこれからの方針を共有し支援させて頂く。	重度化や看取りの対応については、入所時に利用者及び家族に重要事項の中で説明して同意書を貰っている。入所後は利用者の状態変化に応じて終末期のケアを含む説明や話し合いを実施し、ホームで可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる。看取りについては看護職員がいない事等から実施は無く、最終段階で特別養護老人ホームへの入所や医療機関につなげている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時、異常時はマニュアルに沿った対応を行う。ミーティング等で対応しスタッフ全員で、周知共有し取り組むようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を実施している。コロナ禍で地域の方々の参加は出来ないがスタッフ、特養スタッフと連携をとりながら入居者様を搬出し、避難誘導させる体制を築いている。訓練後消防署立ち合いの元消火訓練も行っている。</p>	<p>夜間発生を想定した災害訓練を年2回（内1回は消防署立ち合い）実施し、災害に関する講話や消火器の取扱い等も研修している。通常、訓練には地域住人の参加も得られているが、最近はコロナ禍に配慮して参加の要請は控え、隣接の特別養護老人ホーム職員と協力して実施している。日頃から避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、災害事例を参考に防災への認識を共有しており、市消防署主催の消火器競技大会にも参加している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、防災頭巾、懐中電灯、食料、飲料水等も備えている。通報装置には民生委員も組み入れており、近隣の住民や同法人の事業所との災害時の協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の会話は言葉使いに気を付けている。入浴や排泄時は人格を尊重し、プライバシーの保護に努めている。日々個人情報やスタッフ間で共有している。	個人情報やプライバシー保護については運営規定や重要事項に明記し、利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように研修の実施やケアの振り返り、意見交換で認識を共有している。利用者の心身の状態や生活歴、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に取り組んでいる。ホームの浴室やトイレ、居室等はプライバシー保護に配慮した構造になっており、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉遣いに努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のケアの中で入居者様の思いをくみとり、気軽に会話の出来る雰囲気作りを心掛けている。入居者様の自己決定が出来るように、声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の入居者様の生活歴、生活のペースを大切にし、せかしたり無理強いせず、入居者様のペースに合わせたその人らしい生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合わせた服装を促し、衣類調整を日常的に行っている。鏡を見ながらできる方には整髪して頂き、出来ない方には介助で身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は大きな楽しみであり入居者様の状態に合わせた食事提供を心がけ、御自分のペースで食べて頂く様支援している。料理教室ではスタッフと一緒にギョーザ作りやだんご作り、どら焼き作り等して頂き喜ばれている。	利用者の好みや形態、季節感、盛り付け等細かに配慮し、菜園で収穫した野菜や頂いた農産物も活用している。お節や誕生会等の行事食や外注食、手作りのおやつ、利用者も一緒に団子やどら焼き等を手作りする料理教室の開催等、食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、利用者も日常的にテーブル拭き等を行っている。外食や家族との会食等は自粛し、衛生チェック表により調理場や冷蔵庫、布巾、まな板等の衛生管理を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の摂食状態に応じて、ミキサー食や刻み食等で提供している。状態により水分にはトロミを使用し水分確保に努め、水分量、食事量の把握も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはチェックを行い、スタッフ全員で支援している。含嗽等出来ない方には口腔ティッシュ使用夕食後は義歯洗浄剤に。セット。歯科受診もその都度行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を支援し、立位可能な方は車椅子の方も含め、定期的にトイレ誘導を行っている。自立の方も声かけを行い、排泄チェックを行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状況や習慣に配慮した声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を、複数介助や車椅子も取り入れながら支援している。利用者の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させており、オムツの使用量減少等の改善がみられている。便秘の予防には食事や水分の摂取量、運動等に配慮し主治医にも相談しながら排便コントロールに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェックを行い、水分摂取の促しや食物繊維の多い食材も取り入れて便秘を予防している。状態によっては投薬による排便コントロールも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の準備をおこない、入居者様の体調や希望に応じて、ゆっくりと支援を行っている。その時に応じて入浴の順番も変更している。	基本週2～3回の入浴を支援しているが、必要時には、その都度、シャワー浴で清潔を保っている。温度や時間、順番、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、複数介助も取り入れながら個浴でゆっくり楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏塗布を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いないで、時間や足浴への変更、声かけ等を工夫し、利用者自身の意欲を汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の意志を尊重して、食後等は居室にて休んで頂いたり、リビングでテレビを楽しまれたりとゆっくりと穏やかな気持ちになれる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の容量、用法を確認し、服薬の管理、支援をおこなっている。投薬時は複数で名前等確認し、誤薬のない様に努めている。内服変更や体調変化はスタッフ全員で周知共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や趣味、特技等をいかし生活の中で野菜の餞別や皮むき、創作活動等参加して頂いている。月1回の外注食ではお好きな物を注文され喜ばれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調等考慮し、ホーム回りへの散歩や花見ドライブ等行い、気分転換図っている。交換したリネンも体調をみながらスタッフと一緒に同行して頂く時もある。	利用者の状態に応じて車椅子や歩行介助しながら園庭での日光浴や周辺の散歩、ウッドデッキでのお茶、菜園や花壇での収穫等を日常的に楽しんでいるが、外泊、外食、墓参等は控えている。感染予防対策を徹底して初詣やドライブによる平和公園でのツツジ見物、家族との通院、個別支援による一時帰宅等も取り組んでいる。外出の機会が減少している状況が続いている為、室内での軽い体操やゲーム、音楽・ビデオの視聴等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>初詣の時はお1人ずつお賽銭を入れて頂いてから、祈念されている。御希望があれば預かりのお金で買い物も支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>コロナ禍で面会が思うようにできないので、電話の取り次ぎや御家族様からの手紙の代読等支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は不快感のない設営を心掛ける。季節毎の壁画や入居者様の写真、こころ便り等飾り、居心地のよい空間作りに努めている。生活動線の支障にならない様環境整備にも配慮する。</p>	<p>リビングは、明るく余裕あるスペースが確保されウッドデッキがあり、テーブルやソファ、テレビ、手すり等が動線等に配慮して設置されている。随所に利用者の作品や行事の写真、季節感のある壁画、活花等が飾られ、窓からはのどかな周辺の風景が望め、また、対面式の台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓が徹底され不快に感じる音や臭い等もなく手指消毒剤も備えられて、利用者は四季を感じながら穏やかに過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入退居による入居者様の変動もあるが、気の合う入居者様同志座られる様なソファの配置やテーブル席の変更も行い、心地良い居場所、交流できる生活環境作りを心掛けている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には御自宅で使い慣れた小物、衣類、写真等持ち込んで頂き、馴染みのお部屋として、安心してゆっくりと過ごされる環境作りを心掛けている。</p>	<p>居室はフローリングの床にベッド、エアコン、タンスが備えられ、腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保されている。利用者は自宅で愛用していたテレビや家族写真、寝具、鏡台、電気スタンド、小物等を持ち込み、自身の作品や誕生プレゼントの色紙等も飾って、その人らしい落ち着いた雰囲気のある居室となっている。居室には氏名の表示に加え、自室を戸惑う利用者には判別し易いように花の飾りの目印を取り付ける等工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーで廊下やトイレ、浴室等には手摺りを設置している。手摺りには避難用蛍光テープを貼付し、安全を図っている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない